

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3591500024		
法人名	株式会社M・C・C		
事業所名	グループホーム香雪		
所在地	周南市東一の井手750-8		
自己評価作成日	平成27年2月20日	評価結果市町受理日	平成27年6月2日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成27年3月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎年納涼祭や運動会、忘年会や素麺流しなど、季節に合わせた行事に力を入れており、花見やビアガーデン、カブオケなどの外出行事も取り入れ御好評を頂いている。行事に御家族をご招待したり、その時の写真を添えて御様子をお知らせしている。受診は原則職員が送迎・付添を行い、日々の御様子や気になる事を詳細に主治医に伝え、医療機関との連携を図っている。また看護師による健康管理を行い、利用者様の体調管理と健康維持に努めている。地域の自治会へ加入しており、清掃活動など地域行事への参加や慰問の受け入れを積極的に行っている。毎月の請求時に施設便りや行事案内、利用者様の写真、生活記録簿、日々の御様子をお知らせする手紙などを同封し、普段なかなか面会出来ない御家族からも喜んで頂いている。居室には必要に応じて空間センサーを使用したり、死角を補うミラーを設置して転倒・事故防止に努めている。また次亜塩素酸水を使用した加湿器・噴霧器を設置、感染症予防に努めている。実際にこの数年間は施設内での感染症は見られていない。トイレや脱衣所の前傾姿勢支持バーや浴室の安全回転盤など、機能低下を補う工夫を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者一人ひとりの思いや希望、意向にそった花見やビアガーデン、動物園見学など季節に合わせた行事を計画され、戸外に出かけられるよう支援に努めておられます。事業所で行うレクリエーションとしての運動会行事では、選手宣誓や競技など一人ひとりが活躍できる場面づくりを工夫されたり、納涼祭、忘年会、そうめん流しなどの季節行事に取り組まれています。食事内容の見直しを検討され、地場の新鮮な刺身を毎週1回メニューに取り入れられるなど利用者が食事を楽しめるように支援しておられます。事業所独自で作成された服薬管理表を活用され、職員は誤薬のない支援を目指して、事故防止に取り組まれています。家族会を年2回開催しておられ、家族間同士の交流の場として家族会主流で話し合わせ、情報交換をされるなど事業所と家族の協力関係を築く場として、交流を図っておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニットに事業理念を掲示、周知を図って実践につなげている。また年度末に全体会議において理念の見直しを行っている。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、事業所内に掲示している。年度末に全体会議で理念の見直しを取り上げ、今の利用者の状態から検討し、理念に沿ったケアの継続など、理念を共有して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会に加入しており、定期的に清掃活動やお祭り等の地域活動・行事に参加させて頂いている。また慰問や学生実習を積極的に受け入れ、地域交流の継続に努めている。	自治会に加入し、職員は地域の清掃活動に参加している。地域のどんど焼きに利用者と職員で参加している。しらゆり会の来訪や中学生の体験学習、高校生の実習を受け入れているなど、地域との交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学等の機会を通じ、これまでに得た知識や経験を発信している。また近隣に介護無料相談のチラシを配布したり、認知症サポーターに参加するなどして地域貢献に努めている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	全職員に自己評価及び外部評価の意義を説明し、理解に努めている。また各自で自己評価に取り組み、その意見を集約して全体で評価を行い改善点を抽出、改善への取り組みを行っている。評価結果は運営推進会議で報告を行い、御家族へ送付している。	管理者は、職員に評価の意義について説明し、職員は理解している。職員に自己評価をするための書類を配布し、記入してもらい、項目ごとに話し合い、管理者と主任でまとめている。前回の評価結果について、全体会議で話し合い具体的な改善に取り組んでいる。評価結果は運営推進会議で報告し、家族に送付している。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催。運営状況や活動内容、利用者様の状況等を報告・説明し、御意見・御助言を頂いている。その内容は全体会議等で職員に報告・検討を行い、以降のサービス向上に活用している。	2カ月に1回開催し、運営状況や活動状況、行事説明をして意見交換をしている。メンバーから、会議の案内方法について意見があり改善している。出た意見は全体会議で職員に報告し、話し合い、意見をサービスの向上に活かしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当職員には運営推進会議に御参加頂き、御意見・助言を頂いている。また電話や直接高齢者支援課に出向いて相談・質問をさせて頂いている。担当の方々には当事業所の運営に深い御理解と御協力を頂いている。	市担当課とは運営推進会議時や電話、直接出向いて質問し助言を得たり、事業所の状況を伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修において具体例を示しながら禁止事項について学び、正しい理解に努めている。実際のケアへの取り組みにおいても安易な身体拘束を行わず、見守り等安全確保に努めながら、御本人の立場に立ったケアを行っている。日中の生活時間帯において、玄関の施錠はしていない。	内部研修で身体拘束について学び、職員は理解して、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関の施錠はしていない。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に研修機会を持ち、職員間で認識を共有している。利用者様に対する敬意を忘れず理解に努めることで、信頼関係の構築と尊厳を守るケアを実践している。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修において学ぶ機会を設け、制度についての理解を深めている。実際に利用されている方や、今後利用を検討されている方もおられる。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明を行い、御理解を頂いている。改定時は書面にて説明を行い、同意書に署名・捺印を頂いている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口を設置し、周知を行っている。年2回の家族会や介護計画変更・更新時、面会の際などの機会に御意見・御要望をお伺いし、その都度検討を行っている。その内容については運営推進会議や書面送付にて公表している。	苦情の受付体制や処理手続きを定め、契約時に本人や家族に説明している。年2回の家族会の案内を家族に送付し、意見や要望を聞くようにしている。4名から5名の参加があるが、運営に反映させるまでの意見は出ていない。内容は欠席者家族へ送付し、運営推進会議でも報告している。納涼祭や忘年会の案内を家族にしているが、出席者が少ない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議や常設の申し送りノートなど、自由に意見を述べたり書き込んだりできる機会を設けている。また年2回の個人面談や、それ以外にも個別に意見や提案を募り、改善に役立てている。	管理者は月1回の全体会議や年2回の個別面接で職員の意見や提案を聞く機会を設けている。「申し送りノート」に自由に意見を書けるようにしている。就業時間について全体会議で話し合っている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自の目標達成状況や勤務状況を含めて評価を行い、定期的に昇給を行うなど環境・条件の誠意に努めている。また現状や職員からの要望を踏まえ、設備・用具を整えるなど働き易い環境整備に努めている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は年間計画をもとに職員の習得状況を踏まえた内容でレジメ・資料を作成し、実施している。また外部研修への参加機会を提供し、必要に応じて勤務調整を行うなどの支援を行っている。	外部研修は、職員の経験や希望に応じて参加の機会を提供している。内部研修は、認知症研修（認知症ケアとは、リスクマネジメント）、一般研修（法令遵守、職員倫理、災害時な対応、食中毒、身体拘束と虐待防止、プライバシーの保護、個人情報の保護など）に分けて、年間計画を立てて、月1回実施している。参加できない職員には資料を閲覧し、共有をしている。6ヶ月毎に職員一人ひとりが達成計画の評価や見直しを行い、働きながら学べる様に支援している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入しており、合同研修会への参加や、近隣のグループホームとの運営推進会議等による相互参加・交流を行っている。他事業所の取り組みを参考に、良い点を取り入れることでサービスの質の向上に役立てている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前・入所時の面談において御本人の想いに耳を傾け、御家族の御協力を得ながら生活環境を整え、安心してサービスが利用して頂けるよう努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	直接面談を行い、不安に思われていることや御要望に耳を傾け、ひとつずつ丁寧に説明を行うことで不安を和らげ、良好な関係を構築できるよう努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所が適切かどうかを含め、御本人・御家族が求める支援・サービス内容の評価・検討を行っている。その上で他サービスを含めグループホームについて説明を行っている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御本人の「要望」や「できること」を大切にし、家事や趣味、日々の楽しみを通じて喜びや笑顔を共有している。常に互いに支え合う関係性を大切に、感謝の気持ちを持って接している。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	契約書には一応設定・記載しているが、面会時間は特に設けず、いつでも気軽にお越し頂くようお伝えしている。その上で必要に応じて状況説明を行い、外出支援等の御協力を頂いている。また御家族を行事にお誘いするなど、御本人様が御家族と一緒に過ごす時間を大切にしている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個人のプライバシーには配慮しつつ、御友人等お気軽に御面会頂けるような雰囲気づくりに努め、関係の継続を支援している。また御本人・御家族の想いを踏まえ、日程や手段の調整・体調管理等を行うことで、外出・帰宅を支援している。	兄弟や孫、曾孫、近所の知人、学校時代の教え子、習い事のお弟子さんなどの来訪がある。家族の協力を得て、外食やドライブ、自宅への外泊など、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	運動会や食事会などの一緒に楽しめる行事やレクリエーションを大切にしながら、職員が間に入り、円滑に関係性を構築できるよう努めている。また個々の性格や心身の状況を踏まえ、席の位置や関わり方などを配慮・支援している。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等の事由により契約が終了する場合、退院後の受け入れ先の紹介や再入居の相談を行っている。また御要望に応じて、契約終了後も個別に相談を受け付けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御本人の想いを大切に、御要望には可能な限りお答えするよう努めている。対応が困難な場合は代替案も含め、御本人・御家族と話し合い、検討を重ねている。また意思表示の困難な方については、これまでの生活歴や御家族からのお話を踏まえ、表情や言動から想いを汲み取り、支援を行っている。	アセスメントの他、日々の言動や表情から思いや意向の把握に努めている。困難な場合は本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御本人や御家族からお聞きした情報や前事業所・病院等からの情報提供の内容をまとめ、職員間で周知・理解に努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の御様子を記録に残し、定期的にケアカンファレンスを行うことで現状把握に努めている。また画一的に集団生活に当てはめるのではなく、個々の能力や要望を大切に、その人がその人のペースでその人らしく過ごせるよう配慮している。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御本人・御家族の意向を踏まえ、日々の御様子や医師・看護師の意見をもとに定期的にケアカンファレンスを実施、介護計画の見直し・作成を行っている。	本人や家族、看護師、主治医の意見を参考にしてカンファレンスを行い、職員で話し合い、現状に合った介護計画を作成している。月1回、モニタリングを実施し、3ヶ月毎の見直しをしている。現状に変化が生じた時はその都度見直しをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の御様子を個別に介護記録に残し、職員間で情報を共有している。その記録や看護師の作成した看護日誌などをもとに、介護計画の見直しを行っている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物や外出等、個別の御要望にはその都度対応を行っている。また病院受診は基本的に事業所側で送迎・付き添いを行っており、入院時も御家族の事情等を踏まえて、手続きや洗濯・買い物等の支援を行っている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアや園児・小学生等の慰問もあり、利用者の皆様からも大変ご好評頂いている。また音楽セラピーや生け花などを通じて御自身の持つ能力を発揮されたり、穏やかなお気持ちを育まれている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御本人・御家族の希望するかかりつけ医への受診を支援している。かかりつけ医と事業所が良好な関係を築けており、緊急時などにも親身になって対応して下さるので、こちらとしても心強く、非常に感謝している。	本人及び家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。年2回の訪問歯科診療と口腔指導を受けている。緊急時には、事業所看護師と協力し、かかりつけ医や夜間休日診療所の受診など、適切な医療を受けられるように支援している。事業所独自で服薬管理票を作成して、誤薬防止に努めている。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師とは常に連絡が取れる体制を整えており、その都度適切な助言を頂いている。また相互に報告・相談を行うと共に、その日の気付き等を看護日誌に記録、周知して日々のケアに活かしている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には相互に情報提供と説明を行い、入院中も定期的に担当者へ照会を行っている。また職員が面会することで御本人・御家族との関わりを継続し、安心して治療を受けて頂けるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化した場合における対応に係る指針と看取りへの方針」について、入居時に説明・同意を得ている。御家族の想いを踏まえつつ、事業所として出来ること・出来ないことを明確にして、可能な限りの支援を行っている。	「重度化における対応に係る指針と看取りへの方針」について、契約時に家族に説明している他、事業所ですることができることを説明し、同意を得ている。重度化した場合は、家族やかかりつけ医と話し合い、方針を共有し、家族の思いを大切に支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	ヒヤリハット報告や事故報告、事例を活用して、全体会議・内部研修において再発防止と緊急時の対応について学んでいる。自治会主催の救急救命講習にも参加させて頂いているが、中には講習未経験の職員もおり、来年度中に自施設での講習開催も検討している。	ヒヤリハット報告、事故報告書に記録し、月1回の全体会議や内部研修で話し合い、一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。応急手当や初期対応について学んでいるが、全職員が実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルを作成し、定期的に研修を行うと共に、年2回消防署員立会いのもと避難訓練を実施している。ただし平日の昼間に実施することが多く、近隣住民の十分な御理解・御協力を得られるまでには至っておらず、今後の日程調整と周知方法を含めて検討が必要だと考えている。	防災マニュアルを作成し、定期的に勉強会を行い、年2回消防署の協力を得て避難訓練、消火訓練を実施している。事業所の立地が急傾斜地の崩壊地域となっており、ハザードマップで確認し、避難場所の確認をしている。避難訓練への地域住民の参加は理事長の家族のみで、地域との協力体制を築くまでには至っていない。	・地域との協力体制の構築
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重し、言葉遣いを含めて相手に対する敬意を忘れず対応を行っている。また内部研修において学ぶ機会を持ち、日々のケアに活かしている。	内部研修で「プライバシーの保護」、「個人情報保護」について学び、職員は一人ひとりの人格の尊重、プライバシーの確保について理解して、ほこりやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。介護記録の保管場所も確保している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	御本人の想いを大切に、職員側の意向を押し付けることがないよう努めている。また衣服の選択や食事の形態など、自己選択・決定を尊重した支援を行い、その人らしさが維持できるよう配慮している。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活リズム・ペースを大切に、御本人の意向を優先した支援を心掛けている。意思表示の困難な方はその時の表情や言動から推測し、「その人らしく」を大切に、その人の気持ちに寄り添った支援を行っている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装等、自己選択・決定を尊重している。こちらで御用意する場合は「その人らしさ」を考えて選択を行っている。また希望者には化粧品やパーマ・カラーリングなどのサービスを受けられるよう支援している。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を取り入れたり、盛り付けの工夫や食べ易い形状での提供を行っている。行事として鍋料理やたこ焼き作り、そうめん流し、納涼祭(焼きそば、焼き鳥等)など、利用者様と一緒に準備をしながら、楽しく食事が出来るよう支援している。また新たな試みとして、週1回お刺身を提供。皆様からはご好評頂いている。	事業所でご飯や汁物は調理している。献立や食材は外部委託で、三食とも準備し、利用者はお盆拭きや下膳など出来ることを職員と一緒にしている。毎週金曜日は近所のスーパーマーケットより調味料配達日に合わせて地物鮮魚の刺身を取り寄せるなど食事が楽しみなものになるように工夫している。季節の花見や動物園に弁当持参で出かけたり、季節行事にちらずし、なべ料理をしている他、ビヤガーデンへ出かけて季節感を楽しむなど、食事を楽しむ工夫をしている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	外部委託にて1日の摂取カロリーや栄養バランスを設定。生活記録簿に食事・水分摂取量を記録して情報を共有している。水分摂取量の少ない方にはこまめにお勧めしたり、主食をお粥にするなどして出来るだけ補えるよう工夫している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	御自分で可能な方は御自分で行って頂き、見守りと確認をしている。御自分では困難な方には介助にて口腔ケアを行い、更にもうがいも困難な方には口腔用ティッシュ等を使用して清潔を保っている。夕食後には義歯をお預かりし、洗浄・消毒を行っている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレ誘導チェック表を活用し、排泄パターンの把握に努めている。個々に応じたタイミングでの声掛け・誘導を行い、トイレでの排泄を支援している。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、タイミングに合わせて声かけをしたり、さりげない誘導でトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	生活記録簿・トイレ誘導チェック表を活用し、日々の水分摂取量や食事量、排便状況を確認した上で、追加の水分補給や適度な運動、腹部マッサージを個別に行っている。また医師や看護師の指導のもとに服薬調整も行っているが、最小限に止めるよう配慮している。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	無理強いとならないよう配慮しながら、御希望やその日の体調等を考慮した上で入浴して頂いている。入浴剤や会話、歌などによるコミュニケーションを通じて入浴を楽しめるよう支援している。また足湯やフットマッサージを取り入れた個別対応も行っている。	入浴は毎日、13時30分から16時30分頃まで、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように支援している。利用者の体調に応じて清拭や足湯、フットマッサージなどで対応している。入浴したくない人には、タイミングをみながら、個々に応じた対応をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムに合わせた誘導・支援を行っている。室温・湿度に気を配り、快適にお休み頂けるよう支援している。また安易な眠剤は使用せず、生活リズムの構築やフットマッサージ、就寝前に温かい飲み物を提供するなどの支援を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の薬情報を職員間で共有している。定期薬は調剤薬局にて一包化、名前と服用タイミングを明記して頂いている。また遅出職員が翌日の薬を準備し、夜勤職員が再度確認する二重チェック体制を取っている。提供時には名前等を他職員にも聞こえるよう声に出して読み上げることで誤薬防止に努め、飲み込みまで確認している。また症状等の変化が見られたときはすぐに責任者へ報告し、医師・看護師の支持を仰いでいる。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時の情報や普段からの会話などから生活歴や趣味等を把握し、日々の役割や行事・レクリエーションなどを通じて個々の能力を活かしながら、張り合いと喜びを持って過ごせるよう支援している。	将棋、童謡や唱歌を歌う、カラオケ、時代劇などのテレビ視聴、ボーリング、風船バレー、ラジオ体操、新聞を読む、お盆拭き、下膳、洗濯物たたみ、掃除、生け花教室、音楽セラピー、節分の豆まき、雛祭り、そうめん流し、七夕祭りの飾り付け、事業所の運動会、ビヤガーデン、納涼祭、ハロウィン、クリスマス会、忘年会、誕生会など、活躍できる場面づくりをして、楽しみごとや気分転換の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的な外出行事と共に、御要望とその日の体調・気候等を考慮しつつ、散歩や買い物等の支援を行っている。また職員から外出起案を募ったり、御家族とも連携して外出支援を行っている。	散歩や買い物、季節の花見、動物園、ビヤガーデン、八幡宮大祭、家族の協力を得て外出、外食、外泊、日帰りドライブなど、一人ひとりの希望に沿って、戸外に出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段は事務所に預り金の個別管理を行っているが、買い物等御希望に応じて商品選択や支払いを行えるよう支援している。また毎週金曜日にパンの移動販売車が来訪、希望者に購入支援を行っている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御本人・御家族からの御要望を受け、電話や手紙のやりとりを支援している。また身体状況に応じて、伝言や代筆等の必要な支援を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るいリビングで窓からの眺望も良く、雛飾りやクリスマスツリーなど、季節を感じられる飾り付けを行っている。またソファやテーブルなどはフロアごとの状況に合わせて配置を考えている。壁には行事の時の写真を掲示しており、利用者様との話題作りにも一役買っていたり、来訪された方からも中の雰囲気がよく分かるとご好評頂いている。加湿器には次亜塩素酸水を加え、感染症予防に努めている。実際にこの数年の間、施設内での感染症の流行は見られていない。	リビングは、自然の光が差し込んで明るく、窓から外の景色を眺めることができ、自然の移り変わりを感ずることができる。大型テレビやソファ、テーブルを配置し、思い思いに過ごせるような居場所づくりに工夫をしている。浴槽は個浴槽で回転盤を使い安全に配慮している。殺菌効果のある空気清浄器を置き、感染症予防に努めている。廊下や壁に季節行事の写真を貼り、玄関や廊下の踊り場には季節の飾り付けがしてあり、季節感を感ずることができる。居心地良く過ごせるような工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各々に好きな場所・落ち着く場所があり、普段から自由に過ごされているが、個々の性格や相性を踏まえて滞在場所や食事の席を調整し、心地よく過ごせるよう支援している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御本人・御家族と御相談の上、安全に配慮しながらも基本的に自由に馴染みの物等私物を持ち込んで頂いている。また利用者様の身体状況や御要望を踏まえた上で家具等の配置を行い、生活動線や居心地を考慮している。	テレビ、鏡、ハンガーラック、ウサギの置物、造花、帽子、靴など、使い慣れたものや好みのものを持ち込み、家族写真を飾り、居心地よく過ごせるように支援をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は全面バリアフリーで安全に利用することができる。職員全員がその人の能力を把握しており、見守り等安全確保をしっかりと行いながら、「できること」「分かること」を大切に、過剰介護とならないよう注意しながら、必要な支援を行っている。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム香雪

作成日：平成 27 年 5 月 26日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	事項や急変発生時の応急手当や初期対応についての職員の理解と実践力の取得が不十分である。	全職員が応急手当や初期対応についての理解を深め、研修や講習受講を通じて知識・技術を取得し、実践力を高めていく。	・内部研修機会の増加。→年1回から2回に。 ・自施設での救命講習開催。 ・外部研修機会のあっせん。 →研修紹介。希望者の勤務調整。	1年
2	2 ・ 3	自施設の地域からの認知度が低いと感じている。 ホームの存在が周囲にあまり知られていない。	介護についての情報発信や地域との関わりを通じて、地域での役割を担っていくと共に、地域へのホームの存在の周知を図っていく。	・地域行事への積極的参加 ・介護への疑問や悩みなどについての相談受付。 ・地域の方々を自施設行事にご招待する。	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。